

これまでにいただいたご意見・ご質問とそれに対する教育委員会の考え方
【東葛城校区】(R3 4/19更新分)

Q1 今回の計画案を示すのなら、なぜ「小規模特認校」を始めたのか。

A 小規模化が進む東葛城小学校では、異なる2つの学年を1つのクラスに編成する複式学級が生じてくることが想定されたため、その状況を回避すべく、地域から小規模特認校制度導入に関する要望書が提出されたことを受け、地域との協議を重ねた結果、市教委としても、市全域から児童を募集することは、東葛城小学校の児童がより多くの友達を作り、多様な考え方に触れる機会に繋がると捉えて、小規模特認校に指定したものです。

しかしながら、この間の児童数の推移をみても、大幅な増加には至っておらず、今後の東葛城小学校区全体の児童数見込を考えると、やはり現時点から将来に向けて良い教育環境を整えていくべきと判断し、今回の計画案をお示ししています。

これまでにいただいたご意見・ご質問とそれに対する教育委員会の考え方
【東葛城校区】(R4 1/5更新分)

Q2 児童数も増えてきており、小規模特認校の制度が浸透してきている。なぜ今のタイミングで再編案が出されるのか疑問。

A 特認校の制度を利用する児童は、制度開始当初の令和元年度が2人、令和2年度14人、令和3年度9人という状況で、制度が周知されてきているものと把握しています。

一方、東葛城小学校区の児童数は今後増加が見込めず、特認校制度をもってしても小規模化が改善されない中で、一定の集団規模が確保された教育環境を整えていくことが必要であると考え、今回の案をお示ししているものです。

東葛城校区のこれからの子どもたちの教育環境を考えたときには、現時点から適正規模・適正配置の取組を進めていかなければならないと考えています。

これまでにいただいたご意見・ご質問とそれに対する教育委員会の考え方

【東葛城校区】(R3 4/19更新分)

Q3 東葛城小学校は、小規模の良さを活かした学校である。市教委も肯定していたではないか。小規模校は残さないという方針転換か。

A 教育委員会が考える望ましい教育環境は、これからの社会で生きる力を育むためにも、一定の集団規模が確保され、バランスの取れた学校配置へ整えていくことであり、このことは東葛城小学校区の児童についても同様です。

そのため、小規模化が課題となっていた東葛城小学校の児童も、より多くの友達を作ってもらうために、小規模特認校制度を導入し、その際、学校の置かれている環境から、特色ある教育を取り入れ、現在に至っています。

しかしながら、この間の児童数の推移をみても、大幅な増加には至っておらず、特色ある教育は一定の効果を上げているものの、今後の東葛城小学校区全体の児童数見込を考えると、やはり現時点から、将来に向けて良い教育環境を整えるための適正規模・適正配置の取組を、より優先すべきと考えるものであり、これまでの教育委員会の方針を転換するものではありません。

これまでにいただいたご意見・ご質問とそれに対する教育委員会の考え方
【東葛城校区】(R3 5/17更新分)

Q4 東葛城地域が小規模特認校の認可を市に要請した時点で、市は統廃合等を考えていたはず。その時点で、市から小中一貫校の案や、東葛城校区の児童がさらに減少するので別の方法を探す、などの提案やアドバイスを地域に対してしなかったのか。

A 東葛城地域から小規模特認校導入に関する要望書が提出された平成29年度は、市の総合教育会議の中で学校の適正規模が議題に挙がり、市としても学校の適正規模・適正配置について議論を始めた頃であり、その時点では具体的な学校の再編統合や、小中一貫校の導入について、市としても検討の途上であったため、東葛城地域の皆様に対して、お示しできなかったところです。

その後、令和元年度に、市の附属機関である「岸和田市立小中学校等規模及び配置適正化審議会」から、適正規模に関する基本的な考え方や、適正配置の具体的方策に関する答申を受け、その考え方を踏まえ策定した「岸和田市立小・中学校の適正規模及び適正配置基本方針」及び「岸和田市小中一貫教育基本方針」に基づき、令和2年12月に今回の東葛城地域の皆様に関わる具体的な再編案を含む「岸和田市立小・中学校適正規模及び適正配置実施計画(第1期)」(案)をお示ししているところです。

これまでにいただいたご意見・ご質問とそれに対する教育委員会の考え方

【東葛城校区】(R4 1/5更新分)

Q5 小規模特認校にしながらも「児童数の大幅な増加が見られない」、「地元児童数の減少で特認校がもたない」ことを理由に今回の案を示すのは理由にならないのではないかと。特認校の定員が1学年20人までなのに大幅増加はありえない。制度を利用する方には「1クラス20人までの少人数教育」を魅力と感じている方も多いと思う。

子どもたちの教育環境を守るための再編であるのに、小規模特認校を短期間で見切りをつけ、新たな計画案を出すという進め方は納得いかない。振り回されるのはいつも子どもたちであることを忘れて欲しくない。

A 子どもたちの教育を最優先に考え、様々な施策を講じることが教育委員会の責務であり、適正規模・適正配置の取組も、この先将来にわたって、子どもたちのより良い教育環境を持続的・継続的に提供するための取組の一つであると考えています。

今回の取組は、5年後、10年後の教育環境を見据えたものであり、東葛城校区の児童数推計では、校区内の児童数の増加が見込めないとともに、現在も特認校の定員を超える希望はないことから、この先将来にわたって、現在の東葛城小学校を小規模特認校として維持することは難しいものと考えています。

「なぜ制度開始3年目で早々に学校がなくなる案を示すのか」「そもそも東葛城小学校は少人数が特徴であり、適正規模・適正配置とは別に考えるべき」とのご意見については、特認校制度を検討していた平成29年度は、数年先に、異なる2つの学年を1つのクラスに編成する複式学級の編成が見込まれたため、まずはその状況を回避すべく小規模特認校の指定に至ったものです。しかしながら、前述のとおり、今後、1学級当たりの児童数のさらなる減少が見込まれるため、5年先、10年先の子どもたちの教育環境を考えたときには、現時点から地域・保護者の皆様と話し合いを行い、適正規模・適正配置の取組を進めていかなければならないと判断したものです。

児童生徒一人ひとりのニーズに応じたきめ細やかな教育指導については、市立の全ての学校で、充実に努めてまいります。

これまでにいただいたご意見・ご質問とそれに対する教育委員会の考え方

【東葛城校区】(R3 5/17更新分)

Q6 今回の計画案だと、東葛城校区の子どもたちの通学距離は今よりも遠くなり、スクールバスがあったとしても、特に年齢が小さい子どもやその保護者にとって負担が大きい。小中一貫校にするにしても、現小学校施設を残して使用する施設分離型の小中一貫という方法もあると思う。

A 通学する学校が変わること、通学時間や通学環境が変化することから、そのことに保護者の皆様が不安を抱かれることは十分に理解できることです。

児童・生徒の安心・安全を確保することは教育委員会の責務であり、本市におきましても、スクールバスを導入する際には、安全・円滑に運用されている他市の事例を参考に、保護者の皆様が不安に思われる点などをお聞きし、地域・保護者の皆様と十分に協議して、乗降場所や運行ルート等の具体的な運用方法を決定していきます。

なお、ご指摘のとおり、現在の施設分離型の形態のまま、小中一貫教育を実践している事例もありますが、この手法を東葛城校区で導入すると、一定の集団規模の確保という、今回の取組の大きな目的が損なわれるとともに、より教育効果の高い施設一体型の小中一貫教育ができなくなります。

以上のことから、葛城の谷地域における再編案は、現在の葛城中学校区を一体とした、施設一体型小中一貫校の設置がより望ましいものと考えています。

これまでにいただいたご意見・ご質問とそれに対する教育委員会の考え方

【東葛城校区】(R3 5/17更新)

Q7 東葛城地域に学校・幼稚園がなくなると過疎化、衰退が目に見えている。今の子どもたちが大人になり、この地域で住みたいと思う地域でないと町は活性化しない。市民協との話し合いをもっと積極的に行い、地域の活性化を含めたまちづくりと学校・幼稚園の再編案を出すべき。市街地と同じ条件で測るのは違う。

A 学校が、教育以外にも地域の活動の拠点としての機能を果たしてきたことは承知しておりますが、学校は、何よりもまず、子どもたちの教育の場であり、地域の活性化を第一として、学校のあり方が左右されるべきではないと考えます。

それぞれの地域の事情や市民の皆様のご意見等は様々であることから、まずは、公教育を預かる教育委員会が、市域全体の利益やバランスなどにも配慮しながら、計画案をお示しすべきと考えています。今回の実施計画(案)を基に、市民協議会をはじめ、地域の皆様と、地域の活性化の点を含めて十分に協議させていただき、最もふさわしい解決策を見出していきたいと考えています。